2025 年 1 月

栃木県テニス協会　理事長　吉井正光

TTA レポート（No.134）

年が明けて早々に様々な事件が報じられています。これらはテニスに直接の影響はありませんが、我々競技団体としては自らを省みて襟を正すべき事柄と捉えるべきかもしれません。

これらの事柄に共通して言えることは、権限集中による独裁的組織構造と優越的立場を振りかざした態勢により誰もが口を噤んでしまう構造が出来上がってしまった事ではないでしょうか。また、これらを相互牽制する仕組みが整っていない事もあるのではないでしょうか。

当協会では行動規範を定めて「法令順守」や「社会的規範の尊重」を謳っているほか「人権の尊重」も言及しています。これらは当協会の会則条項にある「県民の心身の健全な発達に寄与するとともに、会員のスポーツ活動環境の向上と親睦を図ることを目的」を達成するために最低限守らなければならない事として掲げています。

それが実現できているかどうかは大会参加者の評価に委ねなければなりません。

テニスではすでに全豪オープンが始まっています。日本選手の活躍を期待したいところですが、世界の壁は厚くて高いことを見せつけられています。しかし、これからの選手がその壁を越えていくことを信じてテニス界を盛り上げていきたいと思っています。

栃木県からは柚木武選手が全豪に挑んでいたり、本田尚也選手が国内外の大会で好成績を収めていることは地元紙で報じられてご存じの方も多いと思います。

私たちはこうした選手に続く選手を発掘し育てていく使命があると思います。それには協会全体で情報を共有し意思疎通を図ることが大切だと感じています。

今年は巳年なので蛇の脱皮に喩え自らの殻を破ると申し上げましたが、自分の足元を見ていくことの大切さを再認識しています。